

更なる福祉の充実を求めて

大坪 国広 議員（共産）

町長 都に対して要望を続ける

質問 高齢者は、医療・介護に対する生活不安が、若い人たちは、安定した仕事につけな
いなど、多くの町民の中に政治や社会への深い閉塞感が広がっている。そこで、次の4点について所見を伺う。

問① 中学3年生まで医療費の所得制限撤廃と通院1回200円を助成すべきと思うが。

町長 所得制限の撤廃については、今後も都に対して要望を続ける。一部負担は、相互扶助の考え方に基き、負担は基本と考える。

問② 寝たきり高齢者支援手当を検討すべきと思うが。

町長 既に医療費の軽減が図られており、町として、無料化の考えはない。

問③ 75歳以上の医療費を無料にすべきと思うが。

町長 既に医療費の軽減が図られており、町として、無料化の考えはない。

問④ 福祉バスを町民だれもが乗れるバスにすべきと思うが。

町長 「特定旅客自動車運送事業」として国の許可を得ており、それを超えて運行することはできない。



後期高齢者医療被保険者証

福祉バス運行ルートが長岡と元狭山地区の一部が朝夕1回になるが

小野 芳久 議員

町長 利用者の声、実績から見直さざるを得なかった

質問 福祉バスは、4月1日より箱根ヶ崎駅を中継地とし、3コースで運行される。これにより現行より、運行時間の短縮と各便数が増加となる。その中で、長岡と元狭山地区の一部が朝夕1回の運行となることは、理解できない。次の点について町長に伺う。

問① 変更に至る過程は。

町長 利用者の声の多くは、運行コース1周にかかる時間が長すぎるというものだった。コースを回る時間の短縮のため、

問② 高齢者移動サービスの格差について。

町長 今回の見直しは、利用実態に基づくものであり、今後も利用実績や需要の把握に努め、適宜対応する。

問③ 補完するサービスは。

町長 新たに実施する予定はない。今後も総合的に勘案し、福祉バス運行の改善に努める。



新規コースで運行される車輛と同型車

工業振興ビジョン策定について

小池 信一郎 議員（瑞山）

町長 各機関と共同で役割と行動を連携する計画を策定

質問 商工会では、20年度より工業振興基本計画に基づき、町の経済発展のために取り組んできたが今年度で終了する。製造業は、地域の活力を支える重要な産業であり、住民もさらなる発展を期待している。町は、農業・商業に関する振興計画を策定し、推進しているが、工業振興においても「ものづくりの町」のビジョンを明確に示し、商工会との連携を強化、官民協働による具体的施策の推進が必要であると考え、町長の所見を伺う。

町長 町は、都の財政支援を受けて「瑞穂町商工会工業振興基本計画事業」を実施し、企業個々の自立性を保持しながら、高度な技術力に支えられた製品を、安定して供給できる受注グループの形成を図っている。また、町内金融機関との人事交流を行い、情報の共有化を図った後、中小企業や商工会、金融機関と共同で、工業振興を含めたそれぞれの具体的な役割と行動を連携する計画を策定し、有効な支援策を構築したいと考える。



こんな質問もありました ボラード設置による道づくりを。

町長 交差点や駐車場などで採用をはじめている。効果を確かめ、増設を検討したい。

区画整理事業と都市計画道路の課題と対策について

尾作 武夫 議員（清風）

町長 関係者の理解を得て、早期完成を目指す



早期完成を目指す駅西口広場

質問 将来の都市像を考えると、都市計画は土地区画整理事業、都市計画道路の完成を抜きにしてまちづくりを考えることはできない。

町長 土地利用計画や交通計画等、都市計画は全分機能していることを前提としている。そこで次の4点について伺う。

問① 駅西、殿ヶ谷土地区画整理事業の完成は。

町長 駅西は、26年度を計画期とし、殿ヶ谷は、30年度の完成を目指している。

問② 栗原土地区画整理事業認可は。

町長 都が新駅設置を認可の条件としたため、JRと新駅設置の協議を行うとともに、事業認可取得に向けた準備に取り組んでいる。

問③ 福3・5・24号線の完成は。

町長 25年度の完成を目指し、道路用地の取得に向けて地権者との交渉を進めている。

問④ 福3・4・10号線の課題は。

町長 2つの都市計画道路は、地権者との交渉が難しい場面もあるが、事業はおおむね順調に進捗している。

